おのまち 議会だより

188号
令和８年
11月26日発行

定例会９月会議

常任委員会審査 …… 4 ページ
町政を問う！５人が一般質問 …… 7 ページ
常任委員会行政調査レポート …… 14 ページ
若い力が未来を動かす！～中学生議会～ …… 18 ページ




▲本会議の様子

定例会９月会議

９月３日～９月 11 日

令和８年小野町議会定例会９月会議は、９月３日から９日間の日程で開かれました。

会議では、令和７年度各会計の決算、令和８年度各会計補正予算など 23 件の町長提出議案と報告２件、議員提出議案２件が提出され、議案はすべて原案のとおり可決しました。

また、５名の議員が一般質問を行い、町政各般にわたり町長の考えをただしました。

◆令和７年度の決算を認定

※１万円未満切り捨て
※端数処理の関係上、差引額が計算と一致しないことがあります。

会計区分			歳入総額	歳出総額	差引額
一般会計			72億4681万円	68億8475万円	3億 6206 万円 ※実質収支額　3億 3514 万円
特別会計	国民健康保険		10億7171万円	10億1479万円	5691 万円
	後期高齢者医療		1億5144万円	1億5116万円	28 万円
	介護保険		15億32万円	12億7602万円	２億 2430 万円
	文化・体育振興基金		275万円	259万円	15 万円
企業会計	浄化槽整備事業	収益的収支	4585万円	5231万円	
		資本的収支	2859万円	3194万円	
	水道事業	収益的収支	1億6460万円	1億4518万円	
		資本的収支	6171万円	1億1430万円	

◆健全化判断比率の報告

令和７年度決算における、町の財政の健全性に関する指標が報告されました。
いずれも基準を下回っており、町の財政が健全な段階で推移していることが確認されました。

健全化判断比率（%）

区分	実質赤字比率	連結実質赤字比率	実質公債費比率	将来負担比率
小野町	－	－	5.5	－
早期健全化基準（黄色信号）	15.0	20.0	25.0	350.0
財政再生基準（赤信号）	20.0	30.0	35.0	

資金不足比率（%）

区分	水道事業会計	浄化槽整備推進事業
小野町	－	－
経営健全化基準	20.0	20.0

※資金不足額がないため「－」で表示。

※実質公債費比率…一般会計等が実質的に負担する公債費の標準財政規模に対する割合。数値が小さいほど健全
※実質赤字比率、連結実質赤字比率は、黒字のため「－」で表示
※将来負担比率は、充当可能財源が将来負担額を上回るため「－」で表示

◆令和８年度各会計補正予算

各会計の補正予算額は、右表のとおりです。

一般会計の収入では、町税、国・県支出金のほか、繰越金などが増額となり、町債（過疎対策事業債・脱炭素化推進事業債・デジタル活用推進事業債など）が減額となりました。

支出では、たかむら荘解体工事費、観光施設クマ対策支援補助金、基金積立金などが増額となり、廃棄物処理共同事業負担金、美売・坪毛線用地測量業務委託料、町民体育館照明LED化工事費などが減額となりました。

また、各特別会計及び各事業会計で、現時点において必要な補正が行われています。

会計区分			補正額	補正後予算額
一般会計			４５６０万円	７０億７７００万円
特別会計	国民健康保険		１０９０万円	１０億７８１２万円
	後期高齢者医療		３５万円	１億５５９３万円
	介護保険		１億５４５７万円	１５億４８６８万円
企業会計	浄化槽整備事業	収益的収入	２５万円	４８８８万円
		収益的支出	２５万円	５６９６万円
	水道事業	収益的収入	△６３万円	１億６５８５万円
		収益的支出	△６３万円	１億５５１３万円

※１万円未満切り捨て

条例の一部改正

◆小野町印鑑の登録及び証明に関する条例の一部を改正

多機能端末機による印鑑登録証明書の交付において、これまでの個人番号カード（マイナンバーカード）を用いた交付の他に、「特定在留カード」及び「特定特別永住者証明書」でも交付できるよう改正。

◆小野町消防団設置等に関する条例の一部を改正

消防団の団員数減少が続いており、現在、条例に規定する定員を大きく下回っている状況であることから、消防団員の定員を「３５０人」から「２９０人」に改正。

◆小野町上水道事業給水条例の一部を改正

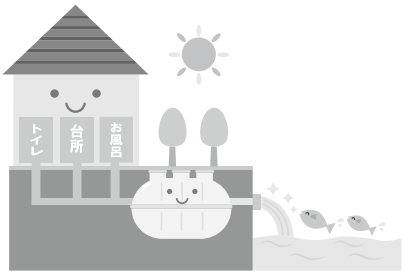
近年の社会情勢や他自治体の状況を踏まえ、利用者の負担軽減を図るとともに、未収金については債権管理条例などに基づく適正な債権管理を行うことにより対応することが可能であることから、水道の使用開始に係る連帯保証人に関する規定を削除。

◆福島県特定事業活動振興計画に基づく小野町税の特例に関する条例の一部を改正

◆小野町認可地縁団体印鑑の登録および証明に関する条例の一部を改正

◆小野町浄化槽整備事業の設置等に関する条例の一部を改正

◆小野町水道事業の設置等に関する条例の一部を改正



条例の廃止

◆昭和天皇の崩御に伴う職員の懲戒免除及び職員の賠償責任に基づく債務の免除に関する条例を廃止

◆昭和天皇の大喪の礼の行われる日を休日とする条例を廃止

報告事項

◆令和７年度地方公共団体の財政の健全性に関する比率の報告について

◆令和７年度小野町一般会計予算継続費精算報告書の報告について

人事案件

◆小野町教育委員会の委員の任命につき同意を求めることについて

小野町教育委員会委員に、村上麻美氏（小野赤沼・再任）を任命することについて、議会の同意を求めるもの。

全員賛成で同意

任期：令和８年10月１日から令和12年９月30日

議員提出議案

◆議員派遣について

議案の審査又は町の事務調査などのため議員を県内外に派遣することについて提案。

【議案提出者：宗像　芳男　議員】

◆小野町議会傍聴規則の一部を改正

実情に即した傍聴環境の整備及び傍聴人の守るべき事項等を現在の社会情勢に合わせたものに改めるとともに、所要の改正を行うため提案。

【議案提出者：中野　孝一　議員】

定例会9月会議 ここが聞きたい 質疑

常任委員会審査

総務文教常任委員会

税務課

問 福島県特定事業活動振興計画に基づく小野町税の特例に関する条例について、当該事業を活用する企業は町内にあるのか

答 活用する企業なし。

町民生活課

問 小野町印鑑の登録及び証明に関する条例について、印鑑の登録をしている外国籍の方はいるのか

答 法人登記や不動産登記などに必要となるので、外国籍の方でも印鑑登録をしている方はいる。

問 小野町認可地縁団体印鑑の登録および証明に関する条例について、認可地縁団体で所有する不動産は課税になるのか

答 固定資産税の課税対象になる。



厚生産業常任委員会

地域整備課

問 小野町上水道事業給水条例について、未納金が多く問題になっているのに連帯保証人をなくすのはいかがか

答 連帯保証人をなくすことで影響が出る可能性があるが、債権管理条例に基づき対応していきたい。また、8月に給水停止の要綱を定めたので、未納額が膨らまないように努力していきたい。

問 実際に連帯保証人から納付してもらったことはあるのか

答 請求した実績はないが、納付を促すように連帯保証人へ連絡したことはある。

問 未納のまま転出などする方を追跡する方法はあるのか

答 転出する場合には、役場での手続きが基本的には必要となるので、追跡はできる。また閉栓した際に移転する場合は住所を教えていただき、納付書を送るようにしている。

問 改正した場合、書類の様式はどのようにするのか

答 改正後、様式は削除したい。

問 改正した場合、それまでの連帯保証人はどのようにするのか

答 改正後、連帯保証人としての責務はなくなる。

問 改正後、連帯保証人だった方たちに改正について連絡や通知などはするのか

答 現時点では決まっていないが、何らかの方法で伝えたいと考えている。

問 現実的に給水停止は可能なのか

答 可能である。水道法に規定されている。

問 給水停止までに協議などが必要と考えてよいか

答 実施に関しては内部協議を行ったうえで判断したい。



予算決算常任委員会

総務課

問 県知事選挙の投票立会人の募集状況は。機器導入はどのようなものか

答 募集状況は19名。現在、期日前投票で使用している機器と同じバーコード照会機器である。

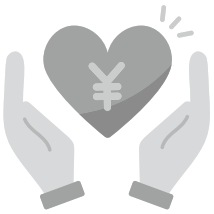
企画政策課

問 日本語学校は設立することを前提に進めているのか

答 総合的に調査している。

問 両方とも奨学金を返済している夫婦の家賃補助などはあるのか

答 奨学金、家賃補助それぞれあるので有効に活用して欲しい。



健康福祉課

問 農産物などの放射能測定はいつまでやるのか

答 国の交付金を活用しており、できる限り継続する。

問 介護保険給付費が減額している要因は

答 介護予防及び健康づくりに対する意識が向上しているため。



問 たかむら荘の解体費用の内訳は

答 建物解体とアスファルト舗装撤去の費用である。

子育て支援課

問 令和7年度決算において不用額が多いが、どの程度の幅を持たせて予算を組んでいるのか

答 項目ごとに前年度実績額などを考慮し編成している。



産業振興課

問 応援商品券支給事業は来年もやるのか

答 国の動向により対応する。

地域整備課

問 林道の管理は誰が行うのか 指導監督は、誰に伝えているのか

答 通常、管理は受益者で行う。指導監督は行政区長や受益者団体に伝えている。

問 美売・坪毛線用地測量業務委託料の入札による請負差金が大きいように感じるが

答 落札業者の状況は確認しており、適切に監督する。

教育課

問 ICT支援員の配置は小学校だけか

答 中学校にも配置している。（小中併用）

問 小学校の屋外トイレ解体後は新設するのか

答 学校側と協議した結果、新設はしない。

問 町民が校庭を利用する場合、トイレはどこを利用すればよいのか

答 児童館を使用できるように子育て支援課と共有します。

審議した議案と各議員の賛否

・賛成が「○」、反対は「×」と表示します。
・田村弘文議長は採決に加わりません。

会議名	提出区分	議案名	可否	古﨑泰介	橋本善雄	國分順一	羽生洋市	會田百合子	緑川久子	先﨑勝馬	竹川里志	宗像芳男	水野正廣	中野孝一
定例会9月会議	町長	福島県特定事業活動振興計画に基づく小野町税の特例に関する条例の一部を改正する条例について	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		小野町印鑑の登録及び証明に関する条例の一部を改正する条例について	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		小野町認可地縁団体印鑑の登録および証明に関する条例の一部を改正する条例について	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		小野町消防団設置等に関する条例の一部を改正する条例について	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		小野町浄化槽整備事業の設置等に関する条例の一部を改正する条例について	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		小野町上水道事業給水条例の一部を改正する条例について	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		小野町水道事業の設置等に関する条例の一部を改正する条例について	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		昭和天皇の崩御に伴う職員の懲戒免除及び職員の賠償責任に基づく債務の免除に関する条例を廃止する条例について	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		昭和天皇の大喪の礼の行われる日を休日とする条例を廃止する条例について	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		令和７年度一般会計歳入歳出決算の認定について	認定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		令和７年度各特別会計等歳入歳出決算の認定について　６件	認定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		令和８年度小野町一般会計補正予算	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		令和８年度各特別会計等補正予算　５件	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		小野町教育委員会の委員の任命につき同意を求めることについて	同意	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	議員	議員派遣について	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		小野町議会傍聴規則の一部を改正する規則	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

※提出区分欄の「町長」は町長提出議案、「議員」は議員提出議案を示します。

◆議会費の公表

議会基本条例第 22 条第２項の規定により、令和７年度の議会費の使途を公表します。



※１万円未満切り捨て

項目	金額	使途の内容
職員人件費	2109万円	事務局職員（２名）、会計年度任用職員（１名）
議員報酬等	5368万円	議会議員報酬、議員共済会負担金
議会運営	367万円	出張旅費・費用弁償、議長交際費、会議録作成料、各種負担金など
議会政策	112万円	各常任委員会の行政調査及び要望活動旅費
議会だより発行	90万円	おのまち議会だより発行経費（４回分）
合計	8046万円	

5人の議員が一般質問

町政を問う

※紙面の関係上、「◆」の質問と答弁の内容のみ要約して掲載しています。
掲載されていない質問項目の内容等は、11月下旬に小野町のホームページに掲載予定の「会議録」をご覧ください。

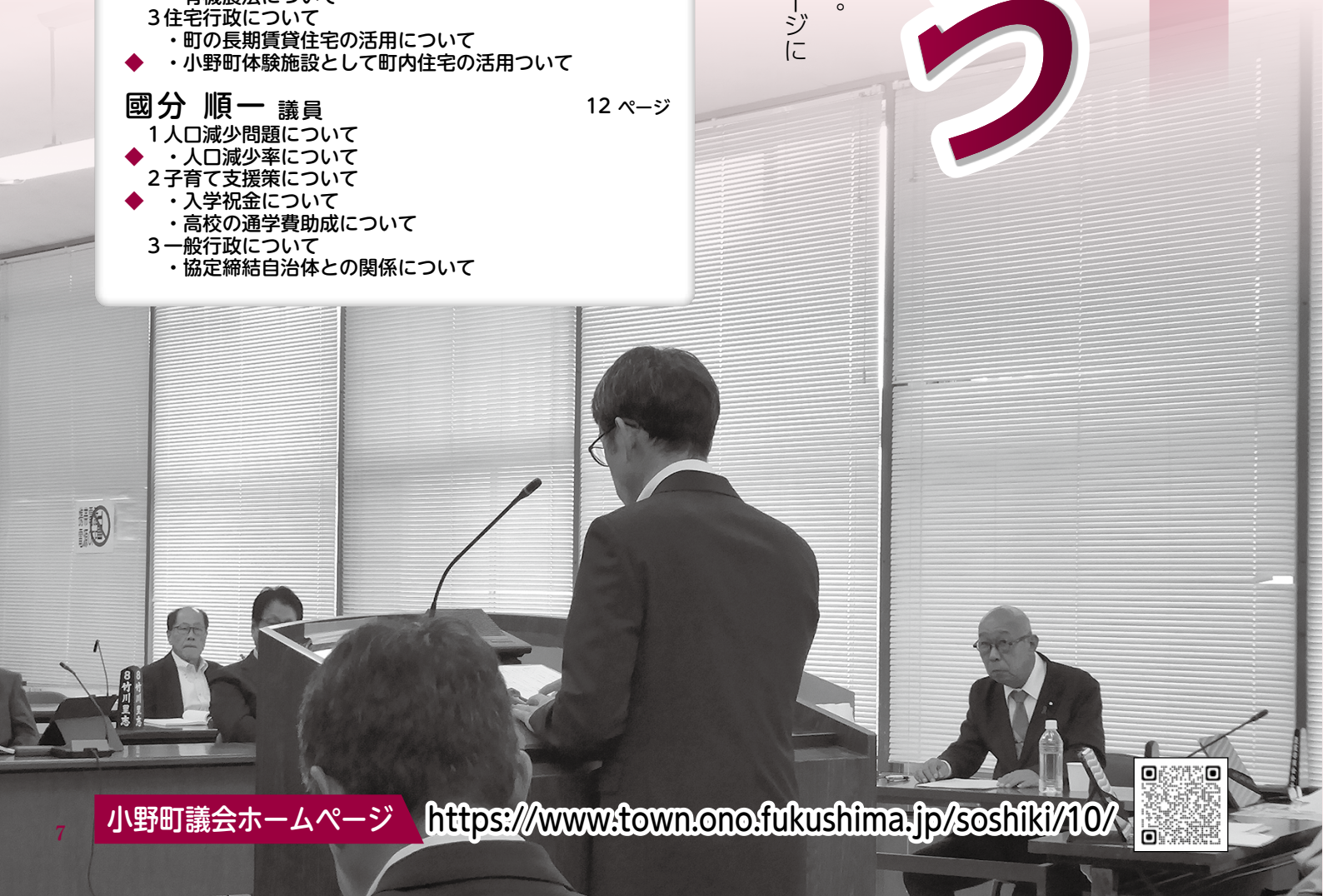
會田 百合子 議員 8 ページ
1 デジタル教科書導入を見据えた
デジタル教育の在り方について
◆ ・デジタル教育におけるデジタル機器の活用について
・デジタル教育の導入における学習の質への影響について
◆ ・デジタル教科書導入における町の方針について

古﨑 泰介 議員 9 ページ
1 町道の管理について
◆ ・支障木伐採について
2 高齢者の健康について
・フレイル予防に効果的な事業について
3 生涯学習施設について
・町民体育館の設備改修について
◆ ・使用料の提示について
・野球場のイベント会場としての利用について
4 新庁舎建設について
・新庁舎と町民体育館を結ぶ経路について

水野 正廣 議員 10 ページ
1 一般行政について
◆ ・旧県立小野高等学校跡地利活用について
・交流人口拡大について
・インター周辺整備事業について
2 観光行政について
・小野町内の観光・文化施設の整備について
◆ ・小町ダム周辺整備について
3 土木行政について
・町内に道路等の整備管理状況について

羽生 洋市 議員 11 ページ
1 産業振興について
◆ ・発酵ソムリエの活用について
・味噌以外の加工施設について
2 農業行政について
・有機農法について
3 住宅行政について
・町の長期賃貸住宅の活用について
◆ ・小野町体験施設として町内住宅の活用ついて

國分 順一 議員 12 ページ
1 人口減少問題について
◆ ・人口減少率について
2 子育て支援策について
◆ ・入学祝金について
・高校の通学費助成について
3 一般行政について
・協定締結自治体との関係について



小野町議会ホームページ https://www.town.ono.fukushima.jp/soshiki/10/

問 GIGAスクール構想に基づくデジタル機器の活用は

答 タブレット端末を１人１台配備。タブレット端末の日常的な活用が図られている



會田（あいた） 百合子（ゆりこ） 議員

問 GIGAスクール構想などに基づくデジタル機器の活用はどの程度進んでいるのか、活用状況について伺う。

教育長 令和２年度、全小・中学生に対しタブレット端末を１人１台配備し、協働的な学びの充実が図られています。また、教師は児童・生徒の学習ペースや理解度に応じた適切なアドバイスができるようになっています。さらに、デジタルドリルなどの活用により基礎学力の定着や個別学習が効果的に進められています。

AI技術が急速に進歩していく中で、ICT環境に柔軟に対応できる能力を育んでいくことは大変重要であるので、引き続き、ICT支援員を有効に活用しながら、教師の指導力向上やICT環境のさらなる充実に努めます。



問 デジタル教科書の導入に対する町の方針は

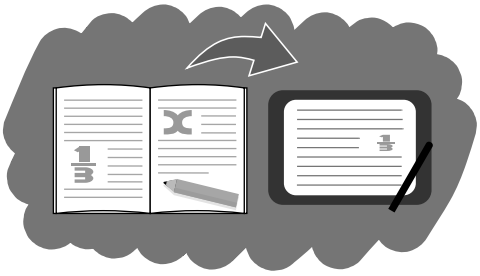
答 ハイブリッド型の教科書を採択する方向

問 デジタル教科書は、2030年以降に正式な導入が予定されており、その運用は自治体の判断に委ねられていると認識しています。教科書の形態として、紙、デジタル、ハイブリッドの3種類が想定されていますが、学年や教科ごとに使い分ける考えなのか町の方針を伺う。

教育長 今年6月に「学校教育法等の一部を改正する法律」が成立し、2030年度の学習指導要領の全面実施に合わせ、デジタル教科書が正式に導入されることとなりました。

デジタル教科書導入における町の方針としては、紙とデジタルを組み合わせたハイブリッド型の教科書を採択する方向で考えています。ハイブリッド型は、音声読み上げ機能や動画によって、視覚的、聴覚的にもより理解を深める効果があるとされています。

町といたしましては、国の方針を踏まえ、教科特性や児童・生徒の発達段階に応じた適切な在り方について今後も検討していきます。





ふるさき　たいすけ
古﨑 泰介 議員

問 支障木に対する町の対策や町民への支援策などは

答 行政区や個人への補助事業を実施している

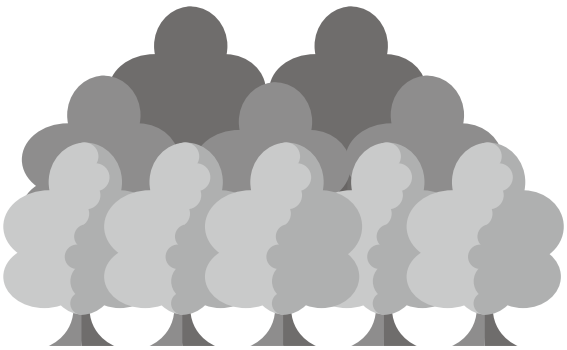
問 これまで町道にかかる支障木は住民による共同作業で伐採されていますが、人材不足により従来と同様に維持管理できるのか不安視されています。今後の人口が少ない時代でも維持できる対策があるのか伺う。

地域整備課長 道路沿線の木々の管理については、安全な交通を確保するうえで重要であり、対応が必要な箇所については枝などの除去を行っています。

地域活動として除草及び支障木の伐採を実施していただいている行政区に対しては補助金を交付しており、所有者個人への支援策として危険木伐採補助金を交付しています。

引き続き、地域住民の過度な負担とならない範囲でのご協力をいただきながら、安全な交通確保のため、町道の維持管理に努めます。





問 生涯学習施設において、細かな用途や目的に分けて使用料を明示しては

答 町民体育館の使用料の明示は現時点では困難。町公式ウェブサイトの充実を図る

問 生涯学習施設の使用料は今年の10月に改定される予定ですが、施設が利用される機会を増やすために、具体的な用途が思い浮かぶ目的別や種目別の使用料を提示できるか伺う。

教育課長 新規で利用される方々への生涯学習施設利用に関しては、用途や使用人数などを確認しながら適切な施設と使用料をご案内しています。

町公式ウェブサイトにおいて各施設の平面図などを掲載し、施設の規模がイメージできるよう表示していますが、町民体育館において、目的別や種目別の使用料の提示につきましては多種多様なスポーツがあることから、現段階では困難であると考えています。

各施設の使用する用途や使用料をわかりやすく表示するなど町公式ウェブサイトの充実を図っていきます。

再質問 施設の駐車場などで出店したい事業者向けに、出店料の規定があり、金額が明らかであれば、出店者数も増えると考えるが、出店料の設定を検討していただけないか伺う。

教育課長 現段階では施設に関する使用料の規定は整備していますが、駐車場などの施設外の敷地にキッチンカーなどが出店することを想定した規定は整備していません。他自治体の事例などを参考に必要な規定の整備を検討していきます。

問 旧県立小野高等学校の跡地利活用に関する町の今後の方針は

答 空き校舎などの利活用や取壊しに関する方針を定めていく



みずの　まさひろ
水野 正廣 議員

問 旧県立小野高等学校校舎利用期間も残すところ1年半余りになり、在学中の2年生が卒業と同時に校舎としての役割を完全に停止することになります。

跡地利活用の活用方針は決まってないように見受けられます。県の支援策に準じ、早急に決定すべきと考えるが、町の今後の方針について伺う。

企画政策課長 旧県立小野高等学校跡地利活用については、庁内に検討組織を設置し、情報収集や現地調査したほか、先進地視察などを行ってきました。また、小野インターチェンジ周辺との一体的な土地利用についての検討も行っているところです。

校舎の利用終了まで1年半余りとなっているので、将来的な維持管理コストなども考慮しながら利活用や取壊しに関する方針を定め、学校跡地が町の新たなにぎわいや交流を生み出し地域活性化に資する拠点となるよう、具体的な活用方法などについても定めていきます。

再質問 どのように利用するかということは、なかなか決められない事柄でもあると同時に、これからの町の発展、維持するために大事な施策になると考えます。検討、検討、検討というふうな時期はとっくに過ぎているように感じますがいかがか。

企画政策課長 残すところも本当に短い、限られた時間となります。旧県立小野高等学校跡地利活用については、スピード感を持って検討を進め、町民の皆さんに具体的な活用方法などを示すことができるよう努めます。

問 こまちダム周辺整備に関して町の考えは

答 管理者や地域住民、現在イベントを実施している団体と協議しながら検討していく

問 こまちダム周辺には町有地や民有地も多くあり、地元の方たちの協力により整備されています。町が積極的に力を入れ整備を行えば一大観光拠点となり得るものと考えられます。

以前には、こまちダムまつりなどのイベントも行われていたが、今後どのように考えているのか伺う。

産業振興課長 こまちダムについては、地元愛護会の皆さんによる環境保全や町管理の公園部分の樹木剪定などにより、景観の保持と維持管理に努めています。

こまちダムを生かしたイベントの開催などでにぎわいが生まれれば、町の観光拠点として活用も期待できます。まずは、町の観光スポットとしてこまちダムの魅力を広く発信するとともに、引き続き地域の皆さんと連携を強化しながら環境整備を進めていきます。また、ダムを活用したイベントの開催など人が集まる場となるような仕掛けを協議しながら検討していきます。





羽生（はにゅう） 洋市（ようい ち） 議員

問 発酵ソムリエの会を立ち上げ、意見交換の場を設けては

答 意向調査や意見交換の場を設け、ネットワークの構築に向け取り組みを進める

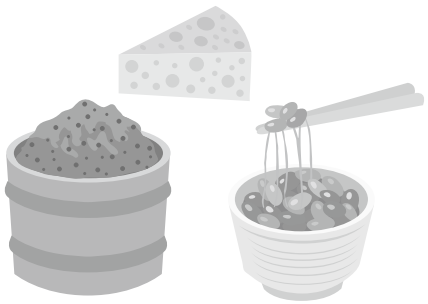
問 発酵の学校サテライトの開催自治体である岐阜県恵那市へ行政調査を実施しました。

恵那市では発酵食品ソムリエの会を立ち上げ様々な活動につなげています。小野町でも発酵食品ソムリエの会をつくり、意見交換の場を設ければ、食品開発の交流の場として期待できるのではないかと考えるが、町の考えを伺う。

産業振興課長 岐阜県恵那市における恵那市発酵食品ソムリエの会は参考となる取り組みであると認識しています。本町においては、発酵食品ソムリエの認定を受けた方は69名おり、そのうち町内の方が25名です。

ソムリエの会のような組織の立ち上げについては、情報交換や食品開発などの交流を図る場として、また、発酵のまちづくりに大きく貢献できるものと期待されます。

まずは、町内の認定者の皆さんを対象に意向調査や意見交換の場を設け、ネットワークの構築に向け取り組みを進めていきます。



問 町内の住宅を活用した体験型施設の実施は

答 8月に民間事業者と契約をし、空き家を移住体験施設として整備

問 町の人口減少が進む中で、小野町に興味を持ち生活を体験したい方の宿泊施設として、町内住宅を活用した取り組みで成果をあげている町があります。希望する方に1週間程度滞在いただける施設を、町内住宅を活用して小野町の良さを体験いただける施設の充実について、町の考えを伺う。

まちづくり推進室長 自治体による移住体験施設の提供は、生活を実際に体験できることにより移住後のミスマッチを防ぐとともに、移住者の増加が期待できる効果が見込まれます。

町では、今年の8月に町内に空き家を有する民間事業者と契約を締結し、移住を検討している方などを対象に最大30日間、小野町での暮らしを体験できる環境を整備しました。

周知の徹底を図り、新たな関係人口の創出、移住定住人口の増加、更には空き家対策につなげていきたいと考えています。



問 国勢調査の結果をどのように受け止めているのか

答 非常に厳しい状況である。出生数の急激な減少や若者世代を中心とした転出の増加が大きな要因



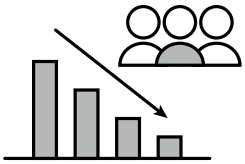
こくぶん じゅんいち
國分 順一 議員

問 国勢調査の速報値が出ました。人口減少は全国的な問題であり、本町でも深刻な人口減少が続いています。購買力の低下による商店街の衰退や転出者が更に増えることにより、高齢者世帯が増え、地域コミュニティの維持が難しくなるという悪循環に陥ります。

県内で2020年から2025年の人口減少率が10％を超えたのは23町村あり、本町は12％と中通り地域では4番目に高い減少率になっていますが、この結果を町長としてどのように受け止めているのか伺う。

町長 2020年の調査と比較し、町の人口減少率は12％であり、大変厳しい状況だと痛感しています。人口減少が進む中で、町としては賢くすぼめていくということも一つの考え方としていかなければならないと思います。一方で、現在住んでいる方の幸福度をあげていくことが非常に大事であると考えています。

移住定住に関しては、町内から出ていかれた方に声をかけUターンをしていただくことや、地域おこし協力隊、活性化起業人などの制度を十分活用して、町に来て活動していただくことも人口減少に対する大きな対応と考えています。



問 入学祝金の増額や物価高騰に対する特別支援金などを検討しては

答 今後も切れ目のない支援を継続。入学祝金の増額は調査・検討していく

問 人口減少を緩やかにするためには、子育て支援策を充実させていかなければとならないと考えます。現在、町では小学校、中学校の入学祝金として3万円ずつ支給されています。しかし、最近の物価高騰により保護者の方々のご苦労も多いと思われます。本町でも、入学祝金の増額や物価高騰などの時期への特別支援金などを検討してはいかがか、町の考えを伺う。

子育て支援課長 小野町笑顔とがんばり子育て支援基金などを活用し、子どものライフステージに合わせ様々な支援を行っており、小・中学校入学の際には祝金として3万円を支給しているほか、学校給食費の無償化などに取り組んでいます。

子育て支援事業については、限られた財源の中で今後も継続的に切れ目のない支援をしていきたいと考えており、入学祝金の増額についても調査・検討していきます。



議会活動トピックス

おのまち夏まつり（8月15日）

夏の風物詩である「おのまち夏まつりに」に参加しました。

オープニングセレモニーに出席して開会を祝うとともに、議員も一緒になって祭りを盛り上げました。多くの町民や多くの町民の皆さん、帰省してきた方などで賑わう会場では直接交流を深めることができ、皆さんの笑顔から小野町の活力を肌で感じる素晴らしい機会となりました。

まつりを通して実感した地域の強い絆と寄せられた生の声を大切にし、元気なまちづくりに向け、今後の議会活動へしっかりと活かしていきます。





全国町村議会広報研修会（8月28日）

研修会では、元奈良県王寺町職員からは読者を引きつける編集技術について、山形県川西町議会広聴広報常任委員長からは住民と議会をつなぐ先進的な広報活動についての講演を聴講し、多くの学びを得ました。

今回の研修で得た新たな視点や手法を今後の「小野町議会だより」の紙面づくりに活かし、町民の皆さんに親しまれるわかりやすい情報発信に努めます。





中間貯蔵事業情報センター視察（9月15日）

センター職員から「震災発生時から現在まで、2045 年３月までに福島県内の除去土壌などに係る県外最終処分」に向けた取り組みについて説明を受けました。その後、実際の土壌貯蔵施設や福島県水産種苗研究所跡、復興再生土を利用した道路実証事業を現地で視察しました。

現場で直接確認した環境再生の最前線と得られた知見を、町民の安全・安心を守る今後の議会活動へしっかりと活かしていきます。





常任委員会研修レポート

研修先：千葉県安房地域（鋸南町・館山市）
茨城県つくば市
期　間：7月6日～8日

総務文教常任委員会　副委員長
國分　順一

当委員会では、持続可能な社会（まち）づくりを思考するため、人材育成や遊休不動産などの既存財産利活用について先進事例を調査し、本町の今後のまちづくりの参考とするため行政調査を実施しました。

◆千葉県鋸南町

「廃校利活用による地域活性化」について

過疎化や高齢化が進む町に地域活性化の起爆剤として開校した「道の駅　保田小学校」において、既存の校舎を有効に活用した都市交流施設としての機能や方策を視察しました。

～廃校を地域の「宝」に再生～

人口減少と高齢化が進む鋸南町では、閉校になった小学校を生まれ変わらせ、民間事業者のノウハウを取り入れた「道の駅」をオープンしました。全国にある道の駅の約3割が赤字と言われる中、関東第1位の人気を集めています。

●「廃校を残す」から「地域の資源として生かす」へ

単に校舎を残すのではなく、思い出や建物の歴史を大切にしながら、地元の野菜・特産品・食事・宿泊を組み合わせることで、子どもからお年寄りまでひきつける魅力的な場所に生まれ変わりました。

●時代の変化に合わせた発展と防災機能

体育館を大きな市場（マルシェ）に、2階の教室を宿泊施設にし、元職員棟には温浴施設も整備。普段は賑わいの場でありながら、非常時には「防災拠点」としての役割も果たします。さらに令和5年10月には、隣の旧幼稚園も活用して「保田小附属ようちえん」をオープン。雨の日でも遊べる室内キッズスペースやコワーキングスペース、駐車場を増設しました。



道の駅保田小学校

●視察で見えてきた現場の課題

一方で、休日の駐車場不足や、団体客が入れる食堂の不足、地元の方の利用・認知度がまだ低いこと、高速道路の近くにあるため町全体への広がり（周遊）が限られていることなどの課題も伺いました。「魅力を高めて訪れる人を増やすこと」と「地域住民の住みよい生活環境を守ること」を両立させる大切さを痛感しました。

◆千葉県館山市

「リノベーションまちづくり事業」について

当市では、遊休不動産の活用と、まちづくりを担う人づくりを目的に、館山駅前の活性化を進めています。官民連携による当該事業について、遊休不動産活用と地域内の経済循環、地域内外の人材交流の実態を視察しました。

～若者の力と空き店舗の活用でまちに賑わいを～

●若手事業者の情熱と町全体の経営視点

多方面で活躍する若手事業者が中心となって「リノベーションまちづくり構想」を令和5年3月に策定。駅前の課題を町全体の問題として捉え、効果を市全体に広げる取り組みを進めています。

●人づくりと空き店舗活用の仕組み

・マルシェの開催：お店体験などを通じて事業を

知ってもらい、新しくお店を開きたい人を発掘
・空き店舗のマッチング：「お店を開きたい人」と「空き店舗のオーナー」を結びつける支援
・高校生のまちづくり部活：地元の高校生がまちづくりに参加し、未来の担い手を育成

●民間がつくる交流拠点

2022年11月、駅前ビルの1階を改修した施設「sPARKtateyama」が開業。

コワーキングスペースやカフェが入るほか、毎月第4土曜日にはマルシェが開催され、新しい賑わいの拠点となっています。

【視察を終えて】

現在、本町においても商店街の衰退やお店の廃業が目立っており、賑わいの再生や空き店舗の活用が大きな課題となっています。また今後、旧県立小野高等学校の跡地・校舎をどのように活用していくかという大変重要なテーマも控えています。

今回の調査で学んだ、鋸南町の「廃校を地域の宝として活かし、新しい仕事や雇用を生み出す姿勢」や、館山市の「空き店舗のマッチングや、高校生・若手を巻き込んだ人づくりの仕組み」は、本町の課題を解決していくうえで大変大きなヒントとなりました。

町の財産を最大限に活かし、訪れる人を増やしながら町民の皆さんの暮らしを守る、持続可能で活気あるまちづくりに向け、実効性のある提案を行っていきます。

◆茨城県つくば市

「筑波研究学園都市」について

国際戦略総合特区としての、まちづくり及び人材育成の方法を視察しました。

～国際戦略総合特区としてのまちづくりと旧校舎利活用の現状～

●研究学園都市の発展と先進的な人材育成

当市は、29の公的・民間研究・教育機関が集積する人口約26万人の研究学園都市です。（※国際総合戦略総合特区の計画期間は令和8年3月に終了）

市内には筑波宇宙センターや国立つくば実験植物園など先進的な施設が立ち並び、官民合わせて約2万3，000人の研究者や職員が勤務しています。研究・教育インフラの充実により、市全体の人口は増加傾向にあります。

●廃校校舎の利活用と地域格差の現実

一方で、筑波山麓にある旧中学校校舎を再利用した体験型展示施設「つくばジオミュージアム」を視察しました。同施設では1階フロアを活用し、地域の大地や自然、文化の魅力を次世代に伝えるための体験型展示を行っており、地域資源の継承と学習の場としての工夫が見られました。

しかし、現地職員の方からは「人口が増加しているのは駅前や研究学園都市の中心部ばかりで、この地域では人口減少が進んでいる」という切実な声も聞かれました。周辺地域では小学校10校・中学校2校が統合されて廃校が増加し、子どもたちがスクールバスで遠距離通学を余儀なくされるなど、地域コミュニティの維持や通学環境に関する大きな課題も浮き彫りとなっています。

【視察を終えて】

先進的な都市開発や施設利活用の成果を学ぶと同時に、中心部と周辺地域の人口動態の乖離、そして学校統合に伴う子どもや地域社会への影響という現実的な課題を実感しました。

本町においても、公共施設の再編や旧校舎の利活用を進めるにあたっては、地域の歴史や魅力を次世代へつなぐ視点を取り入れるとともに、住民の声に耳を傾け、子どもたちの通学負担軽減や地域コミュニティの維持に十分配慮した施策提案に取り組んでいきます。

今回の当常任委員会の行政調査に丁寧に対応いただきました道の駅保田小学校、館山市並びにつくば市の関係者の皆さまに感謝申し上げます。





つくばジオミュージアム

研修先：岐阜県恵那市・各務原市
期　間：7月15日～17日

厚生産業常任委員会　委員長
會田百合子

当委員会では、地域資源を生かした産業振興・まちづくり及び町民の健康増進、健康寿命の延伸の先進事例を調査し、本町の今後の産業・健康施策の参考とするため行政調査を実施しました。

◆岐阜県恵那市

「第2次恵那市たべる推進計画による発酵のまちづくり事業」について

地域資源である食文化を活かした発酵による産業振興と次世代継承の先進地として、岐阜県恵那市（人口約４・４万人）を視察しました。

恵那市では「第2次恵那市食べる推進計画」のもと、家庭に伝わる味噌や麹漬けなどの発酵文化に着目し、「文化継承・観光振興・産業振興」が一体となったまちづくりを進めています。

1．人を育て、組織をつくる（人材育成と普及活動）

「発酵の学校」と発酵食品ソムリエの誕生

令和8年度で5年目を迎える「発酵の学校」サテライト講座を通じ、市内外に多くの「発酵食品ソムリエ」が誕生しています。

●市民主体の普及・伝承活動

令和7年1月に発足した「発酵食品ソムリエの会」が中心となり、イベントでの味噌玉試食ＰＲなどを展開。ソムリエが講師となる市内小学校での味噌づくり体験を通じ、次世代への食文化継承に貢献しています。

2．民間連携・地域商社・行政支援による持続的な展開（観光・産業振興）

●事業者連携と市の開発費補助

発酵事業者や市内飲食店と強力に連携し、「発酵フェス」の開催や新商品・新メニューの開発を推進。市が新商品開発費用の補助を行うことで民間の挑戦を後押ししており、サービスエリアでの売上も好調を維持しています。

●地域商社が運営する駅前拠点と全国発信

本年1月には「第1回発酵食品ソムリエ全国大会」を開催し、全国から203名が参加。

現在は駅前に地域商社が運営する「発酵の拠点ショップ」を構え、観光や産業を繋ぐ実効性の高い拠点として活用が進められています。

【視察を終えて】

恵那市の取り組みの特筆すべき点は、単なるイベントにとどまらず「学び（人材育成）→組織化（ソムリエの会）→実践（事業者連携・地域商社運営の拠点・行政補助）」という持続可能な仕組みが確立されていることです。

本町においては、今年度より「ふるさと財団」の助成を受け、3カ年にわたり発酵の拠点づくりを計画しています。恵那市の事例を踏まえ、町民や会員、関係者の考えを取り入れた、機能的で愛される施設の完成を大いに期待するものです。

また、食文化を活かした6次産業化の推進にあたっては、各部会における「生産・加工・販路確保」などの体制をしっかり整えた上で着実に参入していくことが望ましいと考えます。恵那市で得た知見を活かし、当町の「食」と「人」の強みを活かした魅力ある地域づくりに繋げてまいります。



恵那市

◆岐阜県各務原市

「健康長寿のまちづくりを目指した フレイル予防事業」について

当委員会では、「フレイル事業を通じて、健康長寿日本一のまちへ」を掲げる岐阜県各務原市（人口約142，900人）におけるフレイル（加齢による心身の衰え）予防事業の取り組みについて視察を行いました。

1. 事業の歩みと組織体制

令和2年度に庁内4課によるプロジェクトチームを設置。令和3年度に高齢福祉課内へ「健康長寿係」を新設し、本格展開を開始しました。令和7年度からは、高齢者にとどまらず全世代型での市民の健康維持・増進を図るため、担当部署を健康推進課へ移管して推進しています。

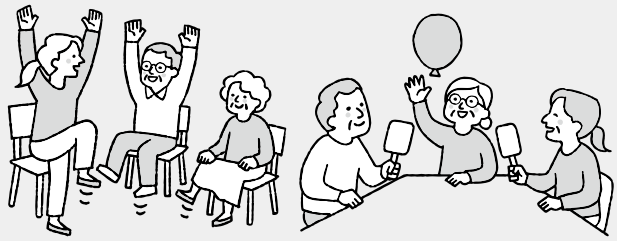
2. 多職種・地域協働による事業展開

「楽しく」「手軽に」「継続的に」をモットーに、市オリジナルのフレイルチェック指標を作成。理学療法士などの専門職、民間事業者、地域包括支援センター、市民で構成する「フレイル予防推進委員会」を設置し、事業改善を重ねています。

- ポピュレーションアプローチ：地域の「通いの場」でフレイルチェックを実施。参加者に「フレイル予防ファイル」を配布し、自宅での振り返りや自主的な取り組みを促しています。
- フレイルサポーターの活躍：養成研修を終えた199名（令和7年度末時点）のサポーターが、地域の測定会や普及啓発活動で活躍。年1回の交流会で意識向上と情報交換を図っています。
- 産学官連携：民間企業や大学と連携し、スマホ教室、講演会、料理教室などを開催。事業成果に連動して委託料を支払うPFS（成果連動型民間委託）も活用されています。

3. 主な成果と課題

【フレイルチェック事業】



項目	令和３年度	令和７年度	比較
実施回数	32 回	101 回	約3倍
参加人数	580 人	2,328 人	約4倍

成果指標に基づくデータ分析・効果検証を毎年実施し事業改善につなげていますが、当市においても「男性」および「70歳未満」の参加率向上が共通の課題となっています。

【視察を終えて】

本町においても各行政区単位で運動教室や交流事業が実施されていますが、高齢男性の参加率の低さが課題となっています。

高齢化率が40％を超えた本町において、フレイル予防事業の重要性は極めて高まっています。単に事業を継続するだけでなく、各務原市のように毎年のデータや実績に基づく効果検証を行い、常に事業の見直し・改善を図る姿勢が不可欠です。男性も参加しやすい環境づくりやエビデンス（根拠）に基づいたPDCAサイクルの構築に向け、今後の政策提言に活かしてまいります。



今回の当常任委員会の行政調査に丁寧に対応いただきました恵那市、各務原市の関係者の皆さまに感謝申し上げます。



各務原市

若い力が未来を動かす！
～中学生議会～



議場に集まった中学生が、まちの将来について堂々と提案・質問をしました。昨今、少子高齢化や物価高騰、地域とのつながりの希薄化が指摘されていますが、小野町の子どもたちはこんなにも輝いています。

８月３日、小野中学校の生徒たちが行政に提案や質問を行う、「小野町中学生議会」が開催されました。議会を身近に感じてもらえるこの取組み。過去には中学生議員の提案が町の施策として実現したものもあります。

中学生議員の皆さんから出された提案・質問と、それに対する町の答弁について紹介します。



自然を生かしたイベントの実施について

議員番号 1番



むらかみ **村上** かえで **楓** 議員

問 町にもっと自然を生かしたものを作ってはどうか

答 本町は高柴山などの山々や夏井千本桜、諏訪神社の翁スギ・媼スギなど多くの緑と自然に囲まれており、これらの地域資源を活用した魅力発信は大変有効と考えます。高柴山や日影山は、冬も山じまいをせず１年を通して登山ができる重要な観光スポットです。多くの方々に自然を満喫して繰り返し訪れてもらえるよう、地域の皆さまと連携して受入れ環境の整備に取り組むとともに、関係者の方々と一緒に積極的な情報発信を行っていきます。

問 ほかの市町村から小野町に行きたいと思えるイベントや交流を実施してはどうか

答 町にはキャンプ場やこまちダムなど、自然を満喫できるスポットと、マウンテンバイクやカヌーなど自然を生かした遊びを体験できる施設や団体があり、多くの方に来ていただいております。こうした施設などのＰＲを強化し、小野町に興味を持ってもらうことは、観光客を呼び込む手段として有効と考えます。ご発言のカヌーなどの貸し出しやサイクリング大会などのイベントは、現在実施している団体と連携し、内容の拡充や支援を行いながら取り組みを進めていきます。

人口流出と少子高齢化への対策について

議員番号 2番



まつもと　かずま
松本　一真 議員

問「スタディサプリ」を町の財政で負担してはどうか

答「スタディサプリ」は有効な学習ツールですが、高い学習効果を出すには自ら学ぶ自己管理能力が不可欠であるため、一律に導入するには課題が多いと考えております。現在、町では塾へ通うことが難しい人でも、学びたい人ならだれでも無料で塾の先生の指導を受けられる公営塾を開いています。短期間ですが小中学生を対象としたプログラムや学習支援を実施しており、今後さらにこの公営塾の充実を図っていきます。

問少子高齢化への対策として、町が実施している支援を RP してはどうか

答町が実施している子育て支援策などの PR は、住民との信頼関係を築く上で大変重要です。町では広報紙のリニューアルのほか、LINE やインスタグラム、KFB 福島放送「ｄボタンかわら版」など様々な方法で情報発信に努めています。情報量の増加などで伝わりにくい面もありますが、ご質問を踏まえ、子育て支援策も含め、受け手の視点に立った工夫を重ね、より分かりやすく伝わりやすい広報活動を行っていきます。

フリースクールの設置と駅前の混雑対策について

議員番号 3番



かしわばら　ゆいか
柏原　結花 議員

問キラッと☆おのなどの施設に「フリースクール」を設置してほしい

答学校に通うことが困難な生徒にとって、安心して過ごせる居場所や学習環境の整備は大変重要です。今年度から小野中学校内に「校内教育支援センター」を設置し、支援員を1名配置しました。支援員が学級担任やスクールカウンセラーなどと連携し学習支援やメンタルサポートなど生徒一人ひとりに寄り添った支援を行っています。ご提案の施設などを活用した学校以外での居場所づくりについても、引き続き調査・検討していきます。

問小野新町駅舎前の混雑（車列）の対策をしてほしい

答令和2年に送迎場を整備後も、駅舎前の混雑が続いていると認識しています。混雑解消に向け、駅前無料駐車場の活用や時間差送迎、詰めて停車することなどについて、広報紙やチラシ配布により鉄道利用者やドライバーのご理解とご協力をいただけるよう周知していきます。また、ご提案の駅舎へのライン引きなどについては、所有・管理するＪＲ東日本と協議していきます。今後も安全で利用しやすい駅前となるよう取り組んでいきます。

観光施設の活用と高校入学時の支援について

議員番号 4番



ぐんじ　はな
郡司 杷奈 議員

問 リカちゃんキャッスルなど、小野町にある施設をもっと前面に活用してはどうか

答 リカちゃんキャッスルは本町を代表する観光スポットで、「町おこしプリンセス」への任命やふるさと納税返礼品などで連携しています。また、東堂山や夏井千本桜、諏訪神社などの魅力的なスポットがあり、コスプレや竹あかりなど新しい取り組みも行われています。今後も小野町の魅力である観光スポットの情報をＳＮＳなどで積極的に発信し、さらにブラッシュアップをして価値を高め、より多くの方に来てもらえるよう取り組みを進めます。

問 高校入学時の支援をしてほしい

答 高校入学時の制服や学用品などの購入は保護者の大きな負担と認識しています。誰もが希望する高校へ進学できる環境づくりは、将来のまちづくりを担う人材育成につながります。国・県の就学支援などに加え、町でも奨学金返還支援事業に取り組んでいます。今後は、就職や専門学校などを選択した生徒などにも目を向け公平に支援できる制度を調査・検討し、一人ひとりが安心して学べる環境づくりと支援の実現に向け取り組んでいきます。

小野町のホームページの充実と交流イベントについて

議員番号 5番



しま　ゆうき
島 優希 議員

問 観光客を多くするために町公式ウェブサイトに魅力的なＰＲ動画を作ってはどうか

答 ホームページへのＰＲ動画掲載は町外の方を町に誘導する有効な手段ですが、現在は動画制作ができる人材が見つからず、専門技術や時間・費用面からすぐの取り組みや掲載は難しい状況です。現在は比較的手軽に取り組める町のインスタグラムで、町の風景やイベントなどのショート動画を投稿しています。今後、多くの人をひきつけ町の魅力を高めることのできる動画づくりやホームページへの掲載について調査・研究していきます。

問 若者やお年寄りの方がどちらも楽しめるイベントなどを実施してはどうか

答 若者やお年寄りなど、あらゆる年代の方々が一緒に楽しむことができるイベントの実施はとても大切であると考えます。ご提案いただいたｅスポーツは高齢者にも浸透しており、町でも令和４年に体験会や全国大会を開催しました。今後、ｅスポーツも含め、若者とお年寄りが一緒に参加できるイベントについて、「どんなイベントができるのか」「どうすれば喜んでいただけるか」「長く続く続けていくことができるか」などを検討していきます。

ごみ拾いボランティアと町民運動会について

議員番号 6番



問 ごみ拾いボランティアを実施してはどうか

答 町内の道路や公園でのポイ捨てに対し、町職員のパトロールやポイ捨て等防止指導員による定期的な回収を行っており、昨年度は約千キログラムのごみを回収しました。ポイ捨てを防ぎごみを捨てられない環境をつくるため、ご提案の「町民みんなで一斉にごみ拾いをする日」の設定に向け進めます。実施にあたってはイベント性を持たせ、子どもから高齢者まで楽しみながら参加でき、地域の活性化や絆を深める機会となるよう工夫していきます。

問 町民運動会を復活してほしい

答 町民運動会はオリンピック開催年に実施され、平成２８年の第１６回以降、新型コロナの影響で延期されました。令和６年のアンケートでは交流を深めたいなどの意見の一方、少子高齢化などで行政区での選手確保が困難との意見もありました。現在は行政区単位での運動会ではなく、誰もが交流できるウォーキング教室などのスポーツ事業を開催しています。復活については、町民の機運の高まりを見ながら関係団体と相談していきます。

■議長あいさつ

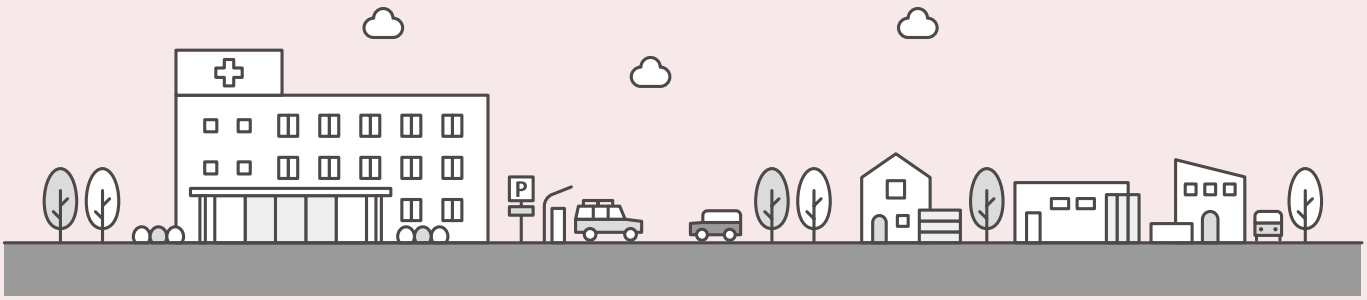
小野町で生活し、小野町をよりよくしたいと思ってるからこそ、町の将来像「人が輝きみんなでつくる　しあわせおのまち」の実現のために、町民が寄り添って考えていけるような提案や質問が出せたと思います。

子どもだからこその気づきを生かすことが町を良くし、私たちが町をより好きになり、住み続けたいと思えるようになります。

本日の提案が少しでも小野町を良くするきっかけとなることを願うとともに、貴重な機会をいただきありがとうございました。

議員番号 7番





中学生議員アンケート

中学生議会終了後、中学生議員を務めた７名の生徒にアンケートに回答していただきました。
その内容の一部についてご紹介します。

問1　あなたは、中学生議員をやってよかったですか。また、その理由を教えてください。

回答	回答数
良かった	7
まあまあ良かった	0
あまり良くなかった	0
良くなかった	0

【主な理由】
- 議会について学ぶことができたし、人としても学ぶことができたから
- 自分の考えを自分の意見で言うことができたから
- 新鮮で面白かったから
- 実際の議会の雰囲気や流れを知ることができたから
- 実際にまちづくりに関わる人の話を聞けたから
- 自分の提案を自分の価値観ではなく、客観的に見ることができたから
- 貴重な体験ができたから

問2　中学生議員に立候補した理由を教えてください。（複数回答可）

回答	回答数
まちづくりに参加したかったから	3
議員になってみたかったから	1
先生に推薦されたから	1
その他	3

【その他の理由】
- 楽しそうだったから
- 将来の夢が政治家や公務員なので、実際の雰囲気を感じたかったから
- これからの生活に役に立つかもしれないから
- 意見を言うことが大切だと思ったから

問3　中学生議会を通して、議会に興味・関心を持ちましたか。

回答	回答数
すごく興味・関心をもった	6
興味・関心をもった	1
あまり興味・関心をもたなかった	0
まったく興味・関心をもたなかった	0

問4　中学生議会をこれからも続けたほうがよいと思いますか。

回答	回答数
ぜひ続けた方がよい	7
できれば続けたほうがよい	0
続けないほうがよい	0
どちらともいえない	0

問5　中学生議会を体験して、よかったところや改善してほしいところなど、感想や意見を記入してください。

【主な感想・意見】
- 役場の方たちがやさしく、分かりやすく教えてくれたので、中学生議員全員が緊張しながらも堂々とやり切ることができた。
- 自分にとって良い経験、良い学びになった。
- 生徒会総会とは違った緊張感があり、勉強になった。
- 議会の緊張感やおごそかな雰囲気を今のうちに感じることができてよかった。
- どんな場面でも堂々と自分の意見を述べられるようになりたい。
- 様々な考え方があることや、いろいろなメリット・デメリットを考えることができた。
- 今回の経験を今後、広く活用していきたい。



議会活動日誌

8月

3日　中学生議会
4～6日　決算審査（書類審査）
7日　月例全員協議会
　　第 27 回市町村対抗ゴルフ大会
　　小野町チーム報告会
15日　おのまち「夏まつり」
17日　県町村議会議長会正副議長・
　　事務局長研修会（福島市）
22日　第 33 回町民グラウンドゴルフ大会
23日　市町村対抗福島県軟式野球大会
　　小野町チーム激励会
24日　定例会 9 月会議議会運営委員会
　　全員協議会
　　新庁舎建設等検討特別委員会
25日　例月出納検査
　　決算監査報告
26日　新庁舎建設等検討特別委員会
28日～29日　全国町村議会広報研修会（東京都）
31日　教育行政評価報告

9月

3日　定例会 9 月会議（本会議）・
　　常任委員会
4日　定例会 9 月会議（一般質問）
7日～9日　定例会 9 月会議
　　（予算決算常任委員会）
11日　定例会 9 月会議（本会議）
　　月例全員協議会
15日　中間貯蔵事業情報センター視察
　　（大熊町）
17日　小野町戦没者追悼式
18日　第 22 回小野町ふるさと暮らし
　　支援センター通常総会
20日　総鎮守諏訪神社秋季例大祭
24日　県町村議会議長会定期総会議決事項に
　　係る国への要望活動（東京都）
　　「防災拠点の設置および災害時相互支援
　　体制の構築事業」支援金決定書授与式
　　第 42 回小野地区警察官友の会総会
25日　例月出納検査
26日　鹽竈神社例大祭
　　小野大倉獅子舞奉納
29日　小野町防犯協会定期総会

10月

1日　市町村対抗福島県ソフトボール大会小野
　　町チーム激励会
6日　県町村議会議長会理事・監事合同会議
　　（福島市）
8日　第 22 回小野町老人クラブ連合会長杯
　　グラウンドゴルフ大会
9日　月例全員協議会
10日　小野小学校運動会
16日　公立小野町地方綜合病院
　　企業団議会第 3 回定例会
18日　百歳賀寿贈呈式
19日　県町村議会議員研修会（郡山市）
23日　例月出納検査
27日　郡山地方広域消防組合議会 10 月定例会
　　（郡山市）
27日～28日　町村監査委員全国研修会（東京都）
29日　第 17 回田村地区交通安全大会（三春町）
30日　県町村議会議長会議長
　　「福島第一原子力発電所及び
　　中間貯蔵施設視察」（富岡町）
31日　令和 8 年度たむら地区 JA まつり
　　（田村市）

議会からのお願い

議会だよりの取材のため、腕章をつけた広報編集委員会の委員がお伺いしますので、ご理解・ご協力をお願いします。

おのまち議会だより
令和8年11月26日発行
188号

議会からのお知らせ

定例会12月会議は

12月3日(木)から開会します。

一般質問は12月4日㈮の予定です。
ぜひ傍聴にお越しください。

●傍聴席が満席の場合は、会議室でのテレビ視聴となる場合があります。
●一般質問の様子は、YouTubeでのライブ配信を行います。
※詳しくは小野町議会事務局までお問い合わせください。(☎0247-72-6930)

表紙の写真

沖縄県立八重山農林高校と旧小野高校の交流10年目という節目に、小野町議会として11月6日から8日まで石垣市を訪れ、市長や市議会、同校を表敬訪問しました。表紙は、現地で開催された「石垣島まつり」オープニングセレモニーでの1枚です。10年の歩みを礎に、両市町の交流が今後さらに発展していくことを願っています。

議会広報WEBアンケート

今後の「おのまち議会だより」の発行にあたり、皆さんの意見を参考にさせていただきます。

①今号でよかった内容
②取り上げてほしい内容
③意見・感想　など

スマホ用アプリ マチイロで配信しています！

より多くの皆さんに「おのまち議会だより」をお届けできるよう、スマートフォン用無料広報誌アプリ「マチイロ」で配信をしています。ぜひ、ご覧ください。

QRコードからアクセスしてください

マチイロ
マチを好きになるアプリ

小野町議会

【小野町議会広報編集委員会】

委員長	田村　弘文
副委員長	中野　孝一
委員	先﨑　勝馬
委員	緑川　久子
委員	會田百合子
委員	羽生　洋市
委員	國分　順一
委員	橋本　善雄

あとがき

秋はお祭りやさまざまなイベントで賑わう季節です。

秋晴れの中、小野小学校の運動会が開催されました。グラウンドに響き渡る子どもたちの明るくはずんだ声が青空に広がり、町に元気を届けます。子どもは町の宝です。

さて、今年も残すところわずかとなりました。振り返れば、人口減少、物価高、異常気象など、社会が大きく変容した一年だったように思います。中でもAI（人工知能）の深化には、驚きを飛び越え恐ろしくもあります。これからもAIは警鐘を鳴らしながらも進化することが予想されますが、〝人間らしさ〟を見失わないようにしたいものです。

時代も転換期を迎えているように感じますが、開かれた議会を目指し、町民の皆さまの声を反映し、〝住みやすい町〟づくりに繋げていきたいと考えます。これからも皆さまの声をお聞かせください。

小野町議会広報編集委員会
委員　緑川　久子

発行者／福島県小野町議会
編集／議会広報編集委員会
〒963-3492
福島県田村郡小野町大字小野新町字舘廻92
☎0247-72-6930

VEGETABLE OIL INK
おのまち議会だよりは、環境にやさしいインキを使用しています。

小野町議会　検索　小野町議会のホームページもご覧ください